

■●■受験対策ミニ講座 10号 2018■●■

「時間が足りない！」と焦っていませんか？それは試験に向けて意識が高まってきた証拠。“焦り”も強み＝ストレングスに変えて、どこまでも前向きに、コツコツ取り組んでいきましょう。

先輩諸氏の「合格体験記」には日々の心構えや時間の使い方の工夫が紹介されています。「少しずつでもいいから、毎日必ずテキストや問題集を開く」「早朝を活用する」「休日は計画的に使う」...当協会のホームページをご覧ください。

【問題 10 29回 138】

「児童の権利に関する条約」に関して正しいものを1つ選べ

- 1 第1回ホワイトハウス会議で採択された。
- 2 日本政府はこの条約を批准するための検討を進めている
- 3 児童の権利を能動的権利と受動的権利に関する節に分けて規定している。
- 4 「児童とは20歳未満のすべての者をいう」と規定している。
- 5 「自由に自分の意見を表明する権利」について規定している

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【子どもの権利条約まで】

世界で最初の子どもの権利についての国際的な文書は「ジュネーブ宣言」(1924年)です。「子どもは危機にあたって最初に救済され、保護されなければならない」...第一次世界大戦で多くの犠牲を出した反省から、国際連盟で採決されました。

しかし、ポーランドの医師で孤児院の院長でもあったヤヌス・コルチャックはジュネーブ宣言を「権利と義務を混同している。善意への訴え、優しさへのお願いにすぎない」と厳しく批判しました。コルチャックは子どもたちの自治を大切にする教育実践を行い、日刊のユダヤ人向け新聞の付録の形で「子ども新聞」を企画し、子どもたちの意見発表の場としました。また、ポーランド放送からの依頼で子ども向けラジオ番組にも出演して、子どもたちに温かく語りかけるなど、多方面で活躍しました。多くの評論を発表して文芸賞やポーランドの文化勲章にあたる賞も受章しています。

この頃に書かれたものの多くが、後の「権利条約」の骨子となっていきますが、時代は暗く、ヨーロッパでは反ユダヤ主義の風潮が高まる中、第二次世界大戦に突入していきます。ユダヤ人のゲットーに閉じ込められ飢えと恐怖が続くなか、1942年コルチャックは孤児院の子どもたちとともに収容所に向かう家畜用の貨物列車に乗せられ、その後の消息は現在もわかっていません。“有名人”であったコルチャックを助けようとする人もいましたが、「私は子どもたちの父です」と、誘いを断ったエピソードが語り継がれています。

第二次大戦後、国際連合は「世界人権宣言」(1948年)を受けて、「児童権利宣言」(1959年)を発表しましたが、その後、ポーランド代表は、「コルチャックを精神的父」として、子どもを「権利の主体」としてとらえる「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」を提案し、1989年に国連総会で採択されました。今回の過去問の選択肢5「子どもの意見表明権」は、同条約の要ともいえる重要な部分です。

参考文献 : 『コルチャック先生ー子どもの権利を求めて』(汐文社)

『コルチャック先生』・『ハンドブック子どもの権利条約』(いずれも岩波ジュニア新書) など。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【問題 10 29 回 138 正解と解説】

- 1 ×正しくは、国連総会で採択されました（1989年）。ホワイトハウス会議は米大統領が児童福祉の専門家をホワイトハウスに招き、1909年から1970年まで10年ごとに開催された会議。
- 2 ×正しくは、日本は1994年に批准し、158番目の締結国となりました。
- 3 ×正しくは、能動的権利と受動的権利は節に分けられているわけではありません。能動的権利は意見表明権、表現の自由など、受動的権利は最善の利益、名前・国籍を得る権利、親からの分離の禁止、国外への不法移送の禁止など、条約の全文にわたって規定されています。
- 4 ×正しくは、1条に「18歳未満のすべての者」と規定されています。
- 5 ○12条に「意見表明権」が明記されています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus